

# 2025 年度事業計画

2025 年 3 月 24 日  
学校法人 金城学院

# 目 次

I	2025 年度事業計画の策定にあたって	2
II	金城学院大学	3
1	教育改革の推進	
2	学生の成長支援	
3	社会連携の推進	
4	環境の活用	
5	基盤の再構築	
III	金城学院高等学校及び金城学院中学校	8
1	教育改革の推進	
2	生徒の成長支援	
3	社会連携の推進	
4	環境の活用	
5	基盤の再構築	
IV	金城学院幼稚園	11
1	教育改革の推進	
2	園児の成長支援	
3	社会連携の推進	
4	環境の活用	
5	基盤の再構築	
V	法人部門	17
1	持続可能な経営・運営体制の確立	
VI	予算概要	19
1	予算編成方針	
2	主な事業別予算	

## I 2025 年度事業計画の策定にあたって

金城学院は、1889 年（明治 22 年）の創立以来、長きにわたってキリスト教主義に基づく女子教育に心血を注いできた。「主を畏れることは知恵の初め（箴言 1：7）」をスクールモットーに掲げ、現在は、建学の精神に基づく学院全体の教育の柱「福音主義キリスト教による女子教育」「全人的な一貫教育」「国際理解の教育」に従って、大学では「強く、優しく。」を、中学校・高等学校では「社会に参画し、主体的に生きる。」を、幼稚園では「愛され、育ち合う。」を、それぞれ教育スローガンとしている。

創立以来 135 年の長きにわたって積み上げられた伝統は、本学院の発展を願い、戦前・戦中・戦後の苦難の時代を乗り越え、絶えず改革を進めてきた先人たちの労苦の上に築かれたものである。このことに鑑み、本学院は今後も、変革すべきは変革し、変えてはならないものは変えない姿勢で、今日の教育機関を取り巻く厳しい環境や激しい社会の変化に対応していく。

なお、創立 130 周年以降、本学院の中長期計画は 5 年ごとの中期計画とした。創立 140 周年に向けた第二段階として策定した『金城学院中期計画（2025 年度～2029 年度）』は、学院全体の組織・機構について常に客観的な評価を行い、法人運営を将来にわたって強固なものにするとともに、将来を見据えながら教育・研究の質的向上に努めるための指針とする。

そして、この中期計画（5 年後のゴール）を実現させるために、初年度である 2025 年度に取り組むべき具体的な課題を、事業計画として取り上げている。

少子高齢化の進行、学校間競争の激化等、私学を取り巻く環境は大変厳しいものがあり、社会のニーズもますます多様化してきているが、金城学院は、そうした様々な社会の変化と、その要請に対して迅速かつ適切に対応できるよう、大学・高等学校・中学校・幼稚園に至る各学校及び法人において、様々な教育制度の改革や、経営の改革を積極的に推し進めていく所存である。

## II 金城学院大学

本学は、福音主義キリスト教の精神に根ざして「強く、優しく。」を教育スローガンに掲げ、多様化する社会で主体的に生きる強さと思いやりの心を兼ね備えた品格ある女性の育成を目指すものである。学院中期計画（2025年度～2029年度）に基づき、教育改革の推進、学生の成長支援、社会連携の推進、環境の活用、基盤の再構築の5つのアクションプランに大学共通の中期目標を設定した。これらの中期目標を達成するため、本学の内部質保証推進会議または教育課程編成会議が指定した関係部門を中心に年次計画を以下のように策定した。

### 1 教育改革の推進

#### 1 学修者本位の教育の推進

##### ① 学修成果の把握と可視化

学生が学修成果を主体的に達成できる学科 DP に対応したルーブリックを作成する。  
学科 DP に対応したルーブリックを運用開始できるように、学内体制を整備する。  
部門ごとに設定した、資格取得等学修成果の目標を達成する。

##### ② アクティブ・ラーニングの充実

アクティブ・ラーニングを導入するための整備を行う。  
アクティブ・ラーニングの取り組みを、担当教員から成果、課題、改善点等の聞き取りを実施し、効果を検証する。

##### ③ ICT を活用した学びの充実

教育の質向上および大学の知の発信を目的に、ICT 活用の基盤を整備する。  
LMS の効果的利用に関するマニュアル作成、LMS 活用に関する研修会等を開催する。

##### ④ 教学マネジメント体制の推進

LMS 等を活用して、学生による授業評価の記入、教員による集計・分析ができる体制を充実させる。

##### ⑤ 数理・データサイエンス・AI に関する教育の推進

デジタル社会で必要とされる数理・データサイエンス・AI を活用できる力を育成する体制を整える。

「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」を制度として整え、申請する。

#### 2 文理横断・文理融合教育の推進

##### ① 学部・学科を超えた文理横断・文理融合教育の推進

広い学問視野を獲得するために、文理融合の視点にたった学びを取り入れる体制を整える。

文理融合の視点にたった学びを取り入れた授業、取り組み等を、その内容および効果を点検しながら行う。

#### 3 グローバル化への対応

##### ① 日本語教育プログラムの整備と充実

日本語教育プログラムを日本語教師の国家資格に対応して整備する。

- ② 海外留学への取り組み強化  
留学者数が増加するように留学支援体制を整える。  
JSAFの説明会を開催する。
- ③ 特定科目でのグローバル化対応  
学科の専門分野におけるグローバル化に向けて、特定の科目で対応できる体制を整える。  
海外の大学と教育に関する意見交換を行い、科目における交流の方法を検討する。
- ④ 留学生の受け入れ体制の向上  
留学生の入学を増加させるため、現状の課題を整理し、受け入れ体制を整える（入学前の面談、日本語の授業、SA体制等）。  
受け入れ留学生の専門に応じて、履修科目の相談を行う体制を整える。  
留学生の入学を増加させるため、各部署での対応項目を明確化し、留学生が滞りなく受験できるように体制を整える。  
既存及び新規協定校からの留学生受け入れを適切に行う。
- ⑤ 外国にルーツをもつ学生の支援体制の強化  
外国にルーツをもつ学生の入学を増加させるため、現状の課題を整理し、支援体制を整える。
- ⑥ 教育研究の国際連携の拡大  
教育研究においてグローバル化を図るため、海外の大学・研究機関と連携を取りながら教育研究活動を実施できるように体制を整える。  
国際的に連携を取っている教育・研究実施例、海外の大学や留学生との交流実施事例を把握し、5年間の実施の見通しを設定する。  
卒業時のグローバルの視野に関する満足度を図るアンケート等を作成する。

#### 4 研究力の向上

- ① 外部研究費獲得の奨励と申請支援体制の整備  
研究力を向上させるため、外部資金獲得を奨励し、申請支援体制を整備する。
- ② 学内助成と特別研究期間制度の充実  
研究力を向上させるため、学内の研究支援体制を整える。
- ③ 研究マネジメント体制の推進  
社会に求められる研究の透明性や安全性を担保するため、研究マネジメント体制を整える。  
研究インテグリティ、安全保障貿易管理については、教職員向け説明会を開催し、運用を開始する。研究データマネジメントについては、管理体制を整える。
- ④ 研究活動の推進と研究成果の社会還元  
研究成果を社会に還元するため、研究成果を公表する体制を整える。  
研究成果の査読付き専門誌への掲載、学会や学術誌への発表、研究会の開催等を行う。

## 2 学生の成長支援

### 1 学生の成長を支援する体制の整備

#### ① アドバイザーによる支援体制の整備

アドバイザーによる支援体制を見直し、より効果的な支援体制に整備する。

アドバイザーによる支援の結果として、部門ごとに設定した退学率、卒業時アンケートにおける満足度を達成する。

#### ② 就職支援の充実

高い就職率を継続させるとともに就職先からの満足度を上げるため、多様な就職支援／学科の専門に応じた就職支援を展開できるような体制を整える。

多様な就職支援／学科の専門に応じた就職支援の効果を、アンケート等を通じて点検する。

#### ③ 学習サポートセンターによる支援体制の整備

学生が必要とする学習面での支援を提供できるよう、学習サポートセンターによる支援体制を整備する。

#### ④ 組織横断的な学生支援体制の整備

組織横断的な学生支援を行えるように体制を構築する。

図書館と学科が連携し、授業への教育支援活動を実施する。

## 3 社会連携の推進

### 1 地域社会との連携および産官学連携による教育の推進

#### ① プロジェクト科目実施の体制整備

受講生の主体性、思考力、コミュニケーション力、協働力を高める授業デザインを考える。プロジェクト科目に協力する団体を確保するなど、企画、準備を進める。

#### ② 産官学の共同研究の推進

社会に求められる知識や技術の創出を目指し、産官学の連携による研究教育体制を整える。

連携事業者からの新規共同研究／共同研究継続の申し出を確保し、産官学の連携による研究教育活動を推進する。

#### ③ 近隣公共文化施設との協働体制の強化

現場で求められる知識と能力をつけるため、近隣公共文化施設と連携した授業を行えるような体制を整える。

### 2 社会貢献活動の推進

#### ① 地域課題に対する協働体制の構築

社会貢献の視点にたったプロジェクトを企画し、準備する。

社会貢献の視点にたったプロジェクトを実施する。

### 3 地域社会のニーズにあった教育の提供

#### ① 地域社会のニーズにあった教育の提供

地域社会に求められる教育を提供するため、授業の内容および運営を検討し、準備する。

地域社会にむけた教育やイベントを、その効果を検証・改善しながら開催する。

- ② リカレント教育および生涯教育プログラムの開発と充実  
リカレント教育および生涯教育のニーズ調査を実施し、プログラムを構築する。
- 4 高大連携活動の拡大と深化
  - ① 入学前プログラムの拡大と深化  
高校生を対象とした入学前プログラムの内容を再検討し、充実を図る。  
高大連携強化の可能性を検討する。
  - ② 高校生を対象とした教育プログラムの拡大  
高校生向けに学科の学びを的確に伝え、体験できる授業を企画し行う。
- 5 同窓会との連携の強化
  - ① 卒業生との繋がり強化  
卒業生との繋がりを強化するために、データを管理するシステムを構築する。  
「ホームカミングデイ」等を実施し、卒業生との繋がりを強化する。  
社会で活躍する卒業生などと教育研究において連携を図る。
  - ② 教育研究における卒業生との連携  
在学生と卒業生の繋がりを強化するため、社会で活躍する卒業生と連携して教育研究活動を行うための体制を整える。

## 4 環境の活用

- 1 環境を活用した総合的な教育の実現
  - ① 学生と教職員の協同による環境活用の推進  
学生と教職員が協同で大学キャンパスの現状の課題を検討し、環境活用に向けたプロジェクトを企画する。  
データベースの使い方を紹介する講習会を開催する。
- 2 学びあうための学習環境の整備
  - ① 学生が主体的に学べる場の構築  
学生が主体的に学べる場に関する課題を把握し、改善できるよう体制を整える。
- 3 ICT 教育環境の整備
  - ① BYOD 型学習環境の整備  
BYOD 型学習の常態化を目指し、BYOD 型授業を実施するための課題の整理と改善策を提示し、環境を整備する。  
デジタル教科書、授業資料の電子化を進める。
  - ② 効果的な遠隔授業の運用  
遠隔授業を効果的に行うため、マニュアルを作成し、適切な運用ができるよう体制を整える。  
遠隔授業を実施するとともに、学びの質を向上させるための勉強会を開催する。
  - ③ LMS を活用した学びのデザイン  
LMS を活用した授業の適切な運用ができるよう体制を整える。  
LMS を効果的に利用した授業実践例の情報共有をはかり、FD 活動の充実をはかる。

## 5 基盤の再構築

### 1 総合教育の実現を通じた KINJO ブランドの再構築と社会への浸透

#### ① 総合的な教育の実現を通じた KINJO ブランドの再構築

教育の質の高さをもって KINJO ブランドを再構築する上で、現状の課題を把握し、改善ができるよう体制を整える。

偏差値を維持・向上させ、高い学力の学生が学ぶ大学であることを世間に周知する。

#### ② 効果的な情報発信・広報活動

魅力的な学びを世間に周知するため、魅力的な学びの情報を広く発信するための体制を整える。

メディアや SNS、大学ホームページを利用し、KINJO ブランドを再構築する上で、魅力的な情報を効果的に適切に発信する。

### 2 外部資金研究の推進

#### ① 外部資金研究の推進

外部資金獲得のための講座等の支援を実施する。

部門ごとに設定した、教員による科研費の申請率を達成する。

### 3 学生の受け入れの推進

#### ① 入学前プログラムの充実

歩留改善（歩留＝合格後辞退者数）のための入学前の接触型プログラムを充実させる。新たな入試制度を実行する体制を整備する。

### Ⅲ 金城学院高等学校及び金城学院中学校

中学校・高等学校ではキリスト教主義による全人教育を行い、さらに2022年度に作成したスクールビジョン「社会に開かれた、わたしをつくるアトリエ」の実現を目標として、引き続き全ての教育活動を実践する。これによって、生徒が卒業時に4つの資質・能力（1 高等教育機関での学びへ円滑に適応するために必要な基礎知識を習得する。2 教科学習及び特別教育活動へ主体的に参加することができる。3 知識を活用して科学的に思考し、表現し、協働することができる。4 将来の自分や社会に対して希望を描き、行動することができる。）を身につけることを目指す。教育活動に係るカリキュラムマネジメントを行い、4つの資質・能力の育成およびビジョンの達成をめざす。

#### 1 教育改革の推進

##### ① 生徒本位の教育の推進

高校では、生徒の将来の夢を実現するため生徒が自己実現できる力をつける。主体的な行動のもととなる動機、価値観などに重点を置いた教育を行う。

中学では、高校でのコース制再編に向けて、中学段階で必要となる力を身につけることができるよう、カリキュラム内外の指導内容を検討する。

##### ② 探究活動の展開

高校では、Dignityをはじめとする教科内で探究プログラムを実施する。また、学校外で行われる探究プログラムに参加することを勧める。

中学では、Dignity 改革プロジェクトチームを中心に Dignity 授業における探究活動のあり方を検討する。またそれ以外の各教科の授業における探究活動の導入を促進する。

##### ③ ICT 活用とデジタル教育の推進

高校では、DX ハイスクールに採択（2024 年度）によって購入したものの効果的な活用、次年度の DX ハイスクール採択を目指し、チームで取り組んでいる。SS,Dignity 等の授業において積極的に推進する。

中学では、ICT を活用した授業、特別教育活動の実践を促進する。また、生徒に対して ICT リテラシーを適切に身につけることができるよう、指導内容、指導方法を研究する。

##### ④ STEM 教育の推進

高校では、生徒が STEM 分野に興味を持つような学内外のプログラムを勧め、生徒の進路選択の視野が広がるようにする。

中学では、単に知識を吸収するだけでなく、課題を自ら発見し、解決策を創出できる能力や資質を育成することができるよう、指導内容、指導方法を研究する。

##### ⑤ 国際教育の推進

高校及び中学では、学校内外の海外研修やオンラインによる国際交流プログラムに興味を持たせ、参加する生徒を増やす。また、全生徒が受験する GTEC において、各学年で期待される結果が残せるよう、指導に注力する。

## ⑥ カリキュラムマネジメントの推進

高校では、生徒の将来の夢を実現するためコース制の再編成を推進し、生徒の進路に合ったカリキュラムを考える。

中学では、教育活動を教科等横断的な視点で計画し展開、様々な計画についてPDCAサイクルをきちんと回し、学校内外の資源を教育活動の充実に活用することができるよう、研究する。

## 2 生徒の成長支援

### ① 進路希望の実現

高校では、金城学院大学の新学部学科を含む各学部学科の情報を生徒に伝え、大学との連携プログラムを行うことで生徒が大学で学びたいことを見つけられるようにする。

中学では、中大連携企画を整備、拡充し、一足先の学びの展望を描かせることで、日常の学習意欲の喚起につなげる。また外部団体、企業などとの提携によるプログラムを様々に盛り込み、キャリア意識を育ませる。

### ② キャリアデザイン教育の推進

高校では、いろいろな職業の方から具体的な話を伺うなど、様々なアプローチを通して将来のなりたい自分を描き、その実現に向けて職業人生を設計できるようにする。

中学では、自己の将来像を具体化させていくための指導、プログラムの研究を行う。理想とする将来像の実現に向けた歩みを思い描かせ、中学校段階でどのような学びをするべきなのか認識させる。

### ③ 教員の教育観の転換の推進

高校及び中学では、外部講師を招いた研修会、校内の教員集団によるワークショップを行い、個々の教員の指導スキルの向上を図る。

### ④ 不登校と相談室登校生徒の減少

中学では、生徒支援会議と学年会の連携を現在以上に強化して、生徒の動向を遅滞なく的確に把握して指導に活かしていく。

## 3 社会連携の推進

### ① ボランティア活動の推進

高校では、社会貢献の実践が生徒自身の幸福感を満たすという体験を通して、社会につながる大切さを学ばせる。

中学では、ホスピタリティ、キャリア意識の醸成に有用となるボランティア活動のあり方を検討し、生徒に積極的な参加を呼びかける。

### ② 大学・企業・他の機関との連携プロジェクト

高校では、大学や企業、その他団体が行う生徒向けのプロジェクトに参加するように勧め、夢の実現につなげる。

中学では、中大連携を強化し、また外部団体、企業などとの提携によるプログラムを様々に展開し、社会で必要となる知識、技能の習得に向けた指導を行う。

## 4 環境の活用

### ① 学習環境の整備

高校では、授業後の補習を行い、自習室の利用を促す。

中学では、希望者を集めた探究活動、補充授業などにより学習能力、意欲のある生徒への働きかけを行う。一方で基礎学力が不足する生徒に対するケアを図る体制を整える。

### ② ICT 教育環境の整備

高校では、中学校入学時に購入したタブレットは4年も経つと使用に限界があるため、ICT 教育に必要なパソコンを高校生一人ひとりにもたせる準備として機種選考や導入方法などについて、ML 課を中心に行う。

中学では、ICT を活用した授業、特別教育活動の効果的な実践に向けて、教員個々の利用環境を整え、スキルアップを図る機会を提供し、学び合う体制を整える。

## 5 基盤の再構築

### ① 学校規模の適正化

高校及び中学では、学則定員数の検討を進め、必要に応じて変更をしていくことができるよう、準備を進める。そのために必要となる情報、資料を収集する。

### ② 広報活動

高校及び中学では、紙媒体から Web を中心とした仕掛けに移行したり、在校生による発信を活用したりするなど、広報活動のあり方全般を検討する。

## IV 金城学院幼稚園

不安定、不確実、複雑、曖昧な時代を迎え、今後の社会では子ども達は自分なりの判断基準(羅針盤)を持ち、何を学んでいくのかを自分で選び取る力が大事であると言われている。「自分達で遊びを創り出し、そこに新しい価値を見出し、仲間と協同していく力、それらの力を使って実際に行動する力」はまさにこれまでも金城学院幼稚園が子ども達の中に育みたいと願ってきたものである。

そのために大事にしてきた異年齢の関わり、長期にわたるプロジェクト遊びなどの内容を丁寧に捉えなおし、2025年度も今まで以上にキリスト教を礎とした「主体的、対話的で深い学び」の教育を「主体的な遊び」を大切にすることで実践していきたい。

また、ますます孤立しがちな子育てを支える場として地域や学院の各校とも連携を強化し、子育て支援、子どもの防災など文化や情報を発信していきたい。

そしてこれら園の教育の特色や取り組みを言語化、可視化することで確実な園児獲得につなげていく。

### 1 教育改革の推進

#### 1 キリスト教主義に基づく園児本位の教育の推進

- ① 園児、保護者、保育者がお互いに一人ひとりを大切にいかして育ちあうスクールモットー「愛され、育ちあう」教育のさらなる推進

行事ごとのアンケート(年間6回程度、記述式)を実施、回答を集約、園の考え方のコメントを付けて保護者にフィードバックしていく。

- ② キリスト教保育指針(2024版)幼稚園教育要領(2018改訂)に基づき「目に見えないもの(自尊心、感情や行動のコントロール力、粘り強さ等の非認知能力)に目を注ぎ」「主体的、対話的で深い学び」を実践する教育のさらなる推進

毎月の月案、領域案検討の職員会議時には全員で「キリスト教保育誌」を読み合わせ、最新の保育情勢を学び職員間で共有する。

#### 2 領域横断的な力を育む幼児教育の推進

- ① 学習指導要領の「生きる力」に関連する「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」及び「表現」の5領域をまたいで展開する主体的な遊びを中心とした教育の推進

「もっと面白くしたい」という内的欲求に根差し「友だちと一緒に(人間関係)遊びの場所を整え(環境)友だちと(言葉)でやり取りしながら、自分たちで遊びを生み出し(表現)たり、身体を使って(健康)遊ぶ」主体的な遊びを教育の柱として毎日1時間から1時間半の自主的な遊びの時間を今まで以上に保障し、継続して取り組む。

- ② 異年齢クラス編成で培う協同的な力としてのエージェンシーとして、遊びの中で自ら課題を発見し仲間と共に「よりよい社会を自ら創り出すために責任を持って協同的に行動する力(協同的な力としてのエージェンシー)」を育む異年齢クラス編成の教育の強化

3・4・5歳児の関わりに注目したエピソード記録に取り組む。帰りの会にて翌日の遊びの室内環境や片付けについて子ども同士で話し合うクラスミーティングの実施を継続する。年長児の活動における話し合いの実践強化。また担当者会議にて実践の振り返

りを学期ごとに実施する。

- ③ 多様なひととの関わりの中で育つ力として、年齢や発達の特徴の違いを持った子ども同士だけではなく多様な立場のおとな（保育者、自分の保護者、友達の保護者、様々な専門領域の学生）や学院の中高生など多種多様な人々との関わりの中で、多面的に問題をとらえる力を育む教育の推進

絵本読み聞かせ・スイカデー・トントンコーナー・芋ほり・焼き芋パーティー・餅つき等のお手伝い父さん母さんとの関わり・一緒にあそぼ等の保育参加での関わり・中学職場体験受け入れ・高校職場体験受け入れ・現代子ども学科 1 年演習受け入れ・現代子ども学科ゼミ生実習受け入れ・金城学院高校キャラバン隊受け入れ・天体観察会（学院中学理科教諭と連携）等を実施する。

- ④ 子ども主体の「プロジェクト・アプローチ」一つのトピックを子ども達自身の発想によって長期に渡り皆で探求・追求・発展させていく活動による総合的な学びの推進  
年間通し、3～4の遊びを「プロジェクト・アプローチ」として展開、推進する。

### 3 国際理解を深めるための教育

- ① 国際化した社会に対応できる人材を育てる

友だちの保護者の国（ノルウェー・オランダ）を知り親しむ。社会奉仕団体の留学生（高校生）との交流を継続・年長児は献金先を決めるにあたり外国の子どもの生活等を調べ理解につなげる取り組み継続。父母の会バザーなどイベントの機会に国際的な人道支援団体との連携を継続、周知する。

- ② 語学教育活動や大学留学生との交流

「英語であそぼう」の教育活動を年間約25回実施。

### 4 幼児教育の質向上のための研究力の向上

- ① 研究会、公開保育、園内・外研修への積極的参加

各種連盟・協会等主催の研修会参加。

- ② 保育理念の可視化と言語化

入園説明会用のPPTの更新。写真付き保育記録「ドキュメンテーション」の作成、展示。

- ③ カリキュラムの検討、行事や保育内容の見直しや検討

特別防災委員会を中心に園の危機管理計画、防災計画の見直しを開始する。

## 2 園児の成長支援

### 1 園児の成長を支援する体制の整備（教学面）

- ① 主体的な遊びや生活を支援する環境や保育の在り方の検討

教育改革の推進と同時に研修、実践、省察をしていく。

- ② 保護者と教員との連携強化

懇談会年2回・おしゃべり会年6回以上・園長面談随時・園庭開放毎週実施

保護者の保育参加実施(毎週月金の絵本貸し出し、年10回のトントンコーナー補助、年間行事の補助)。

### ③ 小学校との接続、地域との連携

各小学校と年2回幼保小連絡会実施。就学に向けて必要な場合は個別のリレーシート作成、小学校へ引継ぐ。年長児の学区小学校や大森保育園との交流事業検討し可能ならば実施する。

### ④ 特別支援の体制の拡充

当年度の支援児数により補助金内で支援担当保育者を配置する。専門機関との連携に関して必要に応じて保護者と面談実施、支援の申請や手続きに関する説明実施。

療育関係機関(約7施設)、行政機関等(約5機関)との密な連携を図る。特別支援について、保護者への啓もうと連携を図る。療育機関との連携や小学校との接続(見学受け入れ年間平均20回)。

### ⑤ 個別支援記録(毎月作成)の活用と改善

個別支援記録をもとに毎月職員会議にて支援方法を検討、次月の計画策定。職員全員で共有し関わっていく。

## 2 園児の成長を支援する体制の整備(生活面)

### ① 基本的な生活習慣確立のための環境設定の検証と改善

年6回の始業終業親子礼拝後の保護者会での保護者への啓もう(起床、就寝時間、排便、身支度について)。

### ② 園児とともに保護者の生活、子育てにも寄り添う支援

園児とともに保護者の生活、子育てにも寄り添う支援を行う。具体的には保護者との定期個人懇談(年2回)、日常の情報交換の強化(降園後の園庭開放週4回・毎週の保育参加募集)、保護者同士の関わりの支援(父母の会活動・保護者の自主サークル5団体中心に支援)、就労支援として長期休暇中の預かり保育の実施方法について検討開始。

### ③ 気候変動による異常気象(猛暑・豪雨)など生活環境の変化に対応した安全な教育と巨大地震などに対する防災のありかたの再検討

気候変動による異常気象(猛暑・豪雨)など生活環境の変化に対応した安全な教育と巨大地震などに対する防災のありかたの再検討(2024～特別防災委員会設置)。年間2回特別防災委員会開催(暑さ対策について検討)。毎月1回避難訓練(地震、火災、不審者)。年2回引き渡し訓練の実施。

## 3 社会連携の推進

### 1 地域社会および産官学連携による教育の推進

#### ① 特別支援の関係機関との連携

各発達支援事業所と定期的に連絡を取り合い情報共有していく。

### 2 社会貢献活動の推進

#### ① 子ども達による地域社会貢献活動

献金・近隣訪問・社会福祉協議会との連携等。

- ② 保護者支援、父母の会による社会貢献、子育て支援事業、災害時の子育て世代への支援  
災害時を想定して保護者と共に炊き出し訓練を兼ねた羽釜や大鍋等での豚汁作り実施  
(1回)、父母の会有志「賛美の会」「青空手話の会」による児童館でのコンサート奉仕(1回)。
- 3 地域社会のニーズに合った保育の提供
  - ① 孤立しがちな子育てを支える「育ちあう」教育の実践  
園庭開放事業「こすずめの会」の実施年間約 80 回実施、こすずめの会において個別の「子育て相談」実施、KIDS センターとの定期的な連携会議の検討開始。
  - ② 多様な子育て支援事業の実施  
園庭開放等の未就園児対象事業・園庭ワーク等行事参加・子育て相談事業、KIDS センター事業参加等。  
父母の会講演会実施、観劇への未就園児参加。
  - ③ 「愛され、育ちあう」という視点を中心に据え、園を基盤とした人的資源(保護者の専門性・地域の方との連携)の活用によるコミュニティの形成とソーシャルキャピタルの創生  
保護者の専門性(教育・建築・都市設計・医療看護・造園等)を登録、ソーシャルキャピタルとして卒園後も活用を検討、父母の会有志の会「賛美の会」の同窓会設立の検討。
- 4 中高大との連携拡大と強化
  - ① 中学生の幼稚園での職業体験、幼稚園関係者への文化祭の周知、参加等双方向的な交流  
中学生の幼稚園での職業体験、幼稚園関係者への文化祭の周知、参加等双方向的な交流、園でのサイエンスショー実施の検討、連携・交流するための連絡・協議方法の検討。
  - ② 職業体験、キャラバン隊受け入れ、高校教員による天体観察会等の双方向的な交流  
職業体験、キャラバン隊受け入れ、高校教員による天体観察会等の双方向的な交流、連携・交流を確実に実施するための連絡・協議方法の検討開始。
  - ③ 各学科、教育実習やゼミの受け入れ  
幼大：各学科、教育実習やゼミの受け入れ(現代こども教育学科 1 年演習、教育実習、各ゼミ実習、英文幼児英語教育実習、国際情報学科後藤ゼミ)KIDS センターとのイベント共催など。
  - ④ 中高大の部活やサークルとの連携  
中高大の部活やサークルとの連携：クリスマス親子礼拝のミニコンサート出演依頼など。
- 5 同窓会連携
  - ① 園同窓会「支える会」との連携強化  
支える会役員会への園長出席。
  - ② みどり野会との連携推進  
連携推進のために連携会議開催を検討。
  - ③ 50 周年を機とした歴代保護者同士の連携強化  
父母の会有志の会「賛美の会」の同窓会結成の検討。

## 4 環境の活用

### 1 環境を活用した総合的な教育の実現

#### ① 園庭整備とさらなる活用

園庭整備(年4回以上)とさらなる活用。毎月の安全点検実施。

#### ② 大学里山の整備推進とさらなる活用

里山の持つ教育的価値(多様な生き物との出会い、自然との共生の感覚、持続可能な環境の重要性の認識)を掘り起こすような教育の創生。クラス毎、学年毎の利用、年長児キャンプでの虫の仕掛け作りと昆虫採集、冬場の落ち葉遊び、お別れ遠足の遊び場としての利用を推進する。

#### ③ 施設利用の検討

地域の子育てや防災等の拠点としての園のあり方を検討する。大災害を想定した備蓄品の検討を開始する。課外英語の1クラス増、利用条件の緩和。課外ハンドベルクワイアの参加条件緩和。課外ハンドベルの施設利用に関する手続きを整備する。

### 2 学びあうための学習環境および人的環境の整備

#### ① 中高大の生徒・学生にとっての実践の場、生きた学びの場としての幼稚園のあり方の検討

中高大の生徒・学生にとっての実践の場、生きた学びの場としての幼稚園のあり方の検討。職場体験、自主実習などの生徒、学生に感想や記録を提出してもらう。感想、記録内容から実施方法や実習内容を検討。

#### ② 保護者など関係者の得意分野、専門性を人的資源(ソーシャルキャピタル)としてとらえ、支え合う保護者同士の関係を学び合う環境として活かす

#### ③ 保育への保護者参加を促す事によって、多様な人との出会いと信頼関係を育み、子育ての孤立化を防ぎ大人も育ちあう場を作る

現在の保育への保護者参加をさらに促す(芋苗植え・スイカデー・芋ほり・焼き芋パーティー・餅つき・絵本読み毎週・トントンコーナー月1回、園庭ワーク年4回等)

新たに災害時の炊き出しを想定した豚汁作り実施、父母の会の活動、有志の会への活動場所提供。エントランス、カフェコーナーの保護者利用の推進。

### 3 ICT 教育環境の整備

#### ① ICT 環境を活用した情報発信力の強化

お便り、写真付き保育記録等の配信の検討。

#### ② ICT 環境整備による保育者や保護者の負担軽減

重点的に新しい園児情報管理システム導入を検討。

#### ③ ICT 社会への対応力の基礎の育成

園が大事にしている子ども自身の実体験からの学びと ICT 教育のバランスを考えていく。

## 5 基盤の再構築

### 1 園児の受け入れの推進

#### ① 優先枠の拡大および周知と人数確保

優先枠の拡大(在園弟妹・卒園弟妹・クリスチャン・徒歩・学院卒業・プレ幼稚園参加者)。周知方法と時期を検討。

#### ② 入園説明会、体験会の充実

入園説明会(5回以上)、体験会の充実(体験時間の延長や回数検討)、個別相談の実施。満3歳児対象説明会実施(11月予定)。

#### ③ KIDSセンター連携強化と未就園児対象事業の拡大

園庭開放年間80回・行事参加増・おさんぽ事業増・満3歳保育体験会実施。

#### ④ ホームページ等広報活動の充実

子どもの生活紹介ページ年間約40回更新。

### 2 外部資金活用の推進

#### ① 財団等の助成金や父母の会、同窓会からの寄付金の活用

財団等の助成金調査開始。父母の会教育拡充費、父母の会バザー収益金の中長期的な使い方について父母の会との相談開始。園同窓会からの寄付金募集について検討開始。

#### ② 子育て新システムの導入・移行の是非の検討

自治体主催の説明会へ参加する。

### 3 総合教育の実現を通じた KINJO ブランドの再構築と社会への浸透

#### ① 幼中高大のさらなる連携

各学科が開催する子ども向け及び親子向けイベントの情報収集する際に園の窓口を一本化し、周知できるよう検討していく(特に現代子ども教育学科、音楽芸術学科のイベント情報を積極的に収集)。現代子ども教育学科の入学前プログラムに協力、現場を体験する場を提供する。園と中高大の連携事例をHPに挙げていく。

## V 法人部門

今後の予測困難な環境下においても、持続可能な法人となるため、強固な経営体質、運営組織の確立を目指し、組織、人事、財務などの改革・改善を次の視点から検討し、実施する。

- (1) 社会の要請に応じたガバナンス体制・危機管理体制の強化
- (2) 事務組織改革・人事制度改革の推進
- (3) 戦略的広報体制の確立
- (4) 情報化戦略の策定と推進
- (5) 財政収支の改善

### 1 持続可能な経営・運営体制の確立

#### 1 社会の要請に応じたガバナンス体制・危機管理体制の強化

##### ① ガバナンス強化のための体制の検討・実行

理事・評議員の役割理解を深め、法人統治機構の実効性を高めるため、研修会を実施する。改正私学法に基づく適切な運営と透明性の向上を促進し、意思決定の質を向上させることを目的とする。

理事会および設置校の責任範囲を明文化し、設置校の重要事項に関する協議フローを設計し、試行運用を開始する。

##### ② 大規模災害など不測の事態への危機管理体制の強化

緊急連絡網と安否確認システムを整備し、迅速な情報共有と教職員の安全確保を強化する。

避難マニュアルとBCPを策定・完成させ、全教職員の危機対応力を向上し、安全確保と業務継続の体制を強化する。

##### ③ 情報セキュリティ対策の強化による安全性の向上

個人情報保護法等、情報倫理及びセキュリティに関する理解浸透させるために、法改正に伴う関連規定の整備を行う。

情報セキュリティ監査の目的・目標を明確化し、体制・方針及び実施マニュアルを作成する。

#### 2 事務組織改革・人事制度改革の推進

##### ① 学院全体の業務改革の実効性が高まる事務組織の構築

業務改革の実績創出を目指し、データ分析を活用した意思決定とボトムアップの体制強化を推進する。

業務改革の実績創出を目指し、データ分析を活用した意思決定を促進するとともに、残業時間の削減を図る。

##### ② 戦略的な人材育成・活用を実現可能とする人事制度改革の検討・実効

業務改革の実績創出を目指し、専門知識向上の研修カリキュラムを整備するとともに、柔軟に人事制度の導入を検討する。

研修受講数（率）の向上を目指し、オンデマンド研修のカリキュラムを整備し、職員の専門知識とスキル向上を促進する。

事務職員の制度満足度向上を目指し、研修カリキュラムの充実や人事制度の見直しを進め、働きやすい環境を整備する。

③ 働き方改革を実施した上での生産性の向上

事務職員の制度満足度向上を目指し、フレックスタイム制度や時短勤務の導入を検討し、労働時間の効率化と職員の働きやすさを向上させる。

残業時間の削減を目指し、フレックスタイム制度や時短勤務の導入を検討し、労働時間の効率化と職員の働きやすさを向上させる。

3 戦略的広報体制の確立

① 戦略的広報を実施する組織体制の整備

広報担当者の基礎研修受講率向上を目指し、スキルアップを促進するとともに、戦略的広報体制の強化に向けた基盤を整備する。

② 戦略的広報の設計・実行

Web トラフィックの増加を目指し、デジタルメディアの活用やコンテンツの整備を進め、学院および設置校の魅力発信を強化する。

4 情報化戦略の策定と推進

① DX を推進し、学生支援サービスの満足度の向上及び事務業務の効率化

学生支援サービスのオンライン化率を向上させ、DX 推進を通じて学生満足度の向上と事務業務の効率化を実現する。

学生支援サービスのオンライン化に対する満足度を前年より向上させ、DX 推進を通じて利便性と業務効率を高める。

② ペーパーレス化の推進による業務効率化

デジタル化を推進し、電子決裁の導入やペーパーレス化を進めることで、業務効率の向上とコスト削減をする。

③ 資産としての蓄積データを可視化し、各種意思決定の良質化と迅速化

主要 KPI をダッシュボードに可視化し、データの傾向や異常値を直感的に把握できる体制を整備する。

5 財政収支の改善

① 経常収支差額の早期の黒字化

設置校の中期計画目標の進捗状況を達成し目標管理を強化することで、計画の着実な履行を推進する。

② 収入増加施策の検討・実行

返礼品付き寄付制度の創設や遺贈寄付、ふるさと納税制度の PR を強化し、安定した財政基盤の構築と奨学金制度の充実、財政収支の改善を図り、寄付金目標額の達成を目指す。

③ 予算要求額など事業内容を精査し、支出を最適化

外部調達コストを削減し、専門家の意見活用や職員研修を通じて、効率的な予算管理と支出削減を推進する。

## VI 予算概要

---

### 1 予算編成方針

#### ① 収入関連

学生生徒納付金収入は、入学者数予測に基づいて算出、退学・休学想定率を2%とする。補助金収入は、前年度実績の90%もしくは最低補償額を見込む。その他の収入等は、不確定な要素があるので、例年通り織り込まない。

#### ② 支出関連

収入規模に見合った持続可能な財政運営を実現するため、支出構造の見直しを行う。特に、2025年度は中期経営計画の初年度および中長期財政計画の第一マイルストーンであり、「資金流出から流入への転換」を実現するため、入学者数の見通しに応じた適正な予算編成を行う。

また、KPI達成に向け、各業務の緊急性・必要性・実効性・継続意義を評価し、非効率な業務は慣行にとらわれず縮小・延期・休止・廃止を検討する。加えて、収入の確保に向けて補助金・助成金・寄付金などの外部資金の積極的な導入を図る。

## 2 主な事業別予算

予算編成方針に基づき、2025年度の主な事業に対する予算を次のとおり計画した。

(単位：千円)

分類	事業内容	予算額
防災	(大学) ・校内危険木撤去工事	3,608
教育設備 充実事業	(大学) ・事務再編に伴う事務室移転工事 ・N1棟,N2棟のプロジェクター交換 ----- (中学校) ・校舎照明LED工事	92,643
修繕事業	(大学) ・W1棟設備・機器年次更新改修費 ・中央監視装置UPS交換作業等 ----- (高等学校) ・栄光館熱源更新工事 ----- (中学校) ・講堂樋樋取替工事 ・講堂系統冷温水発生機更新工事	225,198
広報事業	(法人) ・ブランド構築 ----- (大学) ・特別入試広報費 ・大学広報戦略プロジェクト	129,211
新学部設置 関連事業	(大学) ・大学新学部設置に伴う諸費用 ・看護学研究科設置費用 ・新学部・新学科広報費等	754,561
その他	(法人) ・PCリプレイス等 ----- (大学) ・緊急特別就職支援策等	233,295
合計		1,438,516